２０１８年（平成３０年）１０月１５日　月曜日

デーリー東北　１２面　掲載

第71回 高校野球

秋季東北大会

第2日

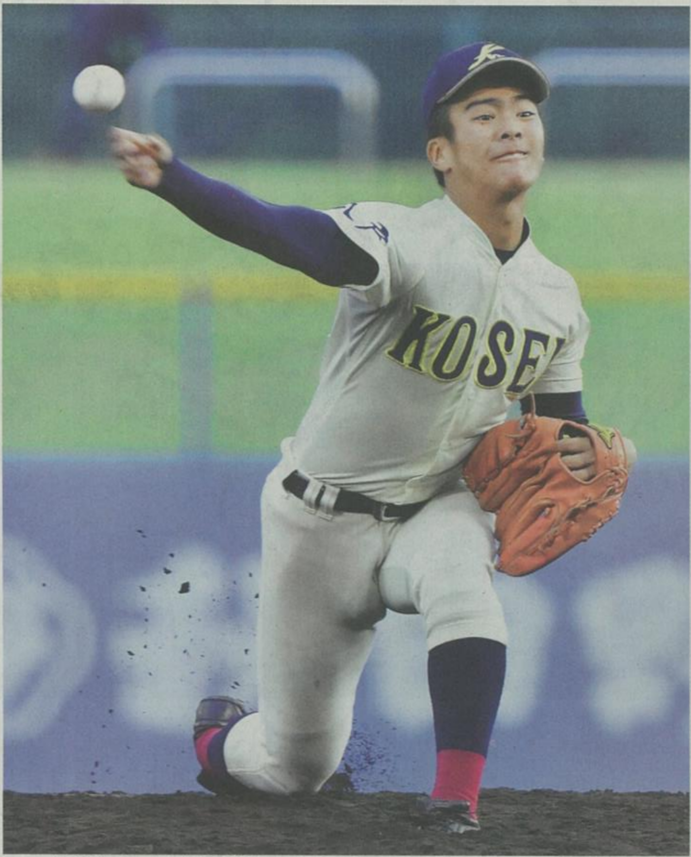
光星8強入り

第71回秋季東北地区高校野球大会第2日は14日、秋田市のこまちスタジアムとさきがけ八橋球場で2回戦計6試合を行った。

青森第1代表の八学光星は、専大北上（岩手第3）に9―2でコールド勝ちを収め、準々決勝に駒を進めた。第2代表の弘前東は延長の末、古川（宮城第2）に3―4で競り負けた。

第3日の15日は、両球場で準々決勝4試合を行う。八学光星は羽黒（山形第2）とぶつかる。

（里村静）



【八学光星―専大北上】先発した八学光星の下山昂大＝秋田市こまちスタジアム

光星 コールド発進

2回戦

八学光星	0	0	3	2	1	0	0	3	9
専大北上	0	0	1	0	0	0	0	1	2

（8回コールド）

（八）下山、山田－太山

（専）髙橋、齋藤、柴田－川村

▽三塁打　島袋、太山（八）

▽二塁打　近藤、下山（八）

【評】八学光星は三回、2死二塁から島袋の適時三塁打で先制。この回に計3得点を挙げて試合の主導権を握ると、四、五回でも加点。八回に近藤の2点適時

【八学光星】	打	安	点	振	球
⑤4伊藤	4	0	0	0	0
④8島袋	3	1	1	0	2
⑥武岡	3	2	2	0	1
③近藤	4	2	4	0	0
⑦大江	4	0	0	1	0
1山田	1	0	0	0	0
①5下山	4	3	0	0	0
⑨原	4	1	0	0	0
②太山	2	2	1	0	1
⑧7澤波	1	1	1	0	1
犠盗失併残 63018	30	12	9	1	5

ヒーロー HERO

下山 相手打線手玉

この日、八学光星の先発を任されたのは背番号5の下山昂大。仲井宗基監督に「甲子園にも出場していて経験豊富。チームを引っ張ってほしい」と期待を込めて送り出された。

中学でも投手を務めていたが、高校の公式戦での先発はこの試合が初めて。それでも、「後ろが守ってくれると信じていた」と不安はなかった。

立ち上がりこそ制球が安定しなかったが、中盤以降は変化球も決まり好投。右のサイドスローから繰り出すスライダーとシンカーで、相手打線を手玉に取った。

「強豪校で自分の投球は通用しない」と高校で内野手に転向。しかし、今秋から投手を任されるようになり、練習試合などで登板して経験を重ねた。練習でも試合でも「チームのことを一番に考えている」という下山。この試合も「行けるところまで自分が投げる。他の投手を楽にしてあげたい」という一心だった。

久々にマウンドに立った試合で、6回1失点と力を見せた。仲井監督も「東北大会は短期決戦。戦える投手が増えて心強い」と太鼓判を押す。それでも、本人は「ボール先行が多かった。もっと打撃につながる投球がしたかったが…」と苦笑い。次を見据え「野手でも投手でも、チームを勢い付けるプレーがしたい」と闘志を燃やした。

（里村静）

デーリー東北新聞社提供